

浪江のくらし

浪江町長 馬場 有

避難してから2,213日目となる3月31日の朝、町営大平山霊園において日の出に町の復興を祈願し、浪江を元の姿に戻し、そして新しい浪江を作っていくという誓いをしてまいりました。その後、犠牲になられた方々のご冥福をお祈りするとともに、浪江に帰って来たことをご報告しました。

避難指示解除準備区域と居住制限区域の避難指示が解除され、ようやく浪江に戻って生活をする事ができるようになったことを実感いたしました。しかし、帰還困難区域の皆さまには引き続きご不便をお掛けしますこと大変申し訳なく思っています。

避難指示解除に合わせ、JR常磐線の浪江駅から小高駅間の運行が再開され、浪江郵便局、JA福島さくら浪江支店などが営業を始めました。徐々にではありますが、町に賑わいが戻ってきていると感じています。

復興はまだ始まったばかりです。安心して町民の皆さんが暮らすことができ、お互いに声を掛け合う風景が浪江に戻るよう努めてまいります。

このためにも、まずは町民の受け皿の一つである災害復興公営住宅を早期に完成させ、震災前と同じような生活を営むことができるよう、重点的に医療・介護・商業施設等の支援体制を整備していきます。さらに雇用の確保を図るために産業団地の造成を進めるとともに、企業誘致の見通しをつけていきます。町に滞在する人が増加することにより、事業を再

開される方も徐々に増えると思っています。

平成30年には、双葉郡8町村の交流イベント「ふたばワールド」を浪江町で開催します。それとともに、町民の皆さんが交流できるよう十日市など伝統のある祭りを再び浪江で開催することができるようになればと思っています。

さらには、浪江を訪れる人を増やしたいと考えています。避難指示が解除されたことにより、災害の記憶・教訓などを研究しようと多くの方が浪江町を訪れる機会が多くなると考えており、こうした方々を受け入れる素地を作っておきたいと思っています。

町は浪江に戻って来たかと思っておられる方、浪江に住んでみたいと思っておられる方が安心して生活できるような環境整備に取り組みでまいりますのでご安心ください。また、戻れない町民の方々に対し引き続き生活支援をしてまいります。これからも職員一丸となって浪江町の復興・再生に努めてまいります。

